

## > LIXIL's Impact ダイジェスト版 2023



# LIXILのインパクト戦略

LIXILは、今日と未来の世界にインパクト(良い影響)を生み出す取り組みと革新的な製品やサービスを通じて、世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現を目指しています。

LIXILのPurpose(存在意義)は「世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現」です。それは、急速に変化する世界において、日々の暮らしを支える製品を生み出し、新しい働き方を推進する私たちの原動力です。

LIXILでは、現在、そして未来の環境や社会、人々の暮らしを見据えた私たちの取り組みが、事業成長の持続性に繋がると確信しています。サステナビリティ関連の取り組みを推進するLIXILの「インパクト戦略」では、世界規模の課題の解決に向けてより大きなインパクトを生み出す「グローバルな衛生課題の解決」「水の保全と環境保護」「多様性の尊重」を3つの優先取り組み分野に設定しています。

これまでの取り組みを強化するべく、LIXILでは測定可能なインパクトと説明責任を重視すると同時に、コア事業との統合を進め、より包括的かつ積極的に社会や環境、人びとの暮らしに与えるインパクトを創出します。「インパクト戦略」は、LIXILが社会やステークホルダーのニーズに応え、次世代が受け継ぐ環境持続性に対する明確な目標を定め、その進捗を追跡することに加え、未来を見据えた事業リスクの軽減、機会を捉える力となるものです。

## LIXILの約束

LIXILは、今日と未来の世界にインパクト(良い影響)を生み出す取り組みと革新的な製品やサービスを通じて、**世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいの実現**を目指しています。

### 3つの優先取り組み分野

グローバルな衛生課題の解決  
すべての人に衛生を



私たちは、世界中の人びとのより良い生活のために、衛生課題に応える革新的な製品とソリューション、ビジネスモデルを提供します。



水の保全と環境保護  
CO<sub>2</sub>ゼロと循環型の暮らしを



私たちは、事業プロセス、製品ライフサイクル全体でエネルギー、水、天然資源の責任ある利用に組み込み、バリューチェーンにおける環境負荷を最小限に抑えます。次世代が受け継ぐ地球環境の改善に貢献する製品やサービスを拡充し、パートナーや消費者とともに環境サステナビリティを推進しています。



多様性の尊重  
すべての人にインクルージョンを



私たちは、ダイバーシティ&インクルージョンを推進し、公平な職場づくりをはじめとする様々な取り組みを行っています。多様な従業員の英知と視点を活かしたイノベーション、社内外との様々なコラボレーションを促進することによって、多様化する顧客のニーズに応え、誰もが快適で健康的な生活を送り、いきいきと輝ける社会を目指します。





優先取り組み分野

## グローバルな衛生課題の解決

すべての人に衛生を



### 背景

世界では、安全に管理された衛生設備（トイレ）を使用できない人々の数が2022年時点で約34億人に上り、そのうち約4.1億人は日常的に屋外で排泄をしています。この不衛生な環境は命を脅かし、毎日約700人以上の5歳未満の子どもが衛生問題に起因する下痢性疾患で命を落としています。また、世界人口の約4人に1人、約20億人が家庭で基本的な手洗い設備を利用できていません。手洗い設備の不足は、感染症の拡大を引き起こす危険性があります。

安全で衛生的なトイレや手洗い設備の不足は、すべての国や

地域に悪影響を及ぼし、成長と発展の可能性を妨げています。さらに、トイレの不足は特に女性や女兒に対して危険をもたらします。人目につかない場所まで用を足しに行く途中で、性的暴行を受けたり、動物に襲われたりするケースがあるほか、初潮を迎えた女子生徒が通学をあきらめざるを得ない原因となり、男女の教育格差にもつながっています。

このような劣悪な衛生環境が世界に与えた経済損失は、2015年時点で2,230億米ドル（約22兆円、1米ドル=約100円で換算）に達しています。

安全に管理された  
衛生設備(トイレ)を使用できない人数

約34億人

そのうち  
日常的に屋外で排泄をしている人数

約4.1億人

衛生問題に起因する下痢性疾患で亡くなる  
5歳未満の子ども

1日当たり 約700人超

家庭で基本的な手洗い設備を  
利用できていない人

約20億人 (世界人口の4人に1人)

### LIXILがもたらすインパクト

LIXILは、2025年までに1億人の人びとの衛生環境の改善を通じて、生活の質の向上に貢献することを目標に掲げ、革新的で低価格なトイレや衛生ソリューションを提供するSATO事業を基軸に取り組んでいます。

たった一つの製品から始まったSATO事業は2023年に10周年を迎え、現在では製品ポートフォリオを大幅に拡充し、地域の特性やニーズに合わせた製品・ソリューションを提供しています。また、「SATOトイレシステム」「コネクションシステム」「SATO Tap」などの製品開発を行い、エンドユーザーのニーズへの対応だけでなく、消費者の行動変容につながるような製品開発にも取り組むことで、社会により良い変化をもたらしています。

SATOの革新的な衛生ソリューションは、現在45カ国以上に

広く導入され、高い評価を受けています。さらに、製品ソリューションの提供にとどまらず、現地の職人や実業家の育成のほか、Make（作る）、Sell（売る）、Use（使う）というサイクルを回す現地の生産・販売体制の構築など、多角的な取り組みを行い、さまざまな地域で衛生市場の確立と経済的な効果の拡大に貢献しています。

特に、深刻な衛生課題を抱える農村や都市部の住民に対しては、独創的な啓発活動を通じて、衛生環境が家庭やコミュニティにもたらすインパクトについての理解促進を図っています。LIXILは、これらの取り組みを多様なステークホルダーと連携しながら進めることで、地域社会の衛生状況の改善と人々の健康に大きなインパクトをもたらしています。



「SATO トイレシステム」

ペットボトルを活用した  
手洗いステーション「SATO Tap」

現地における  
生産・販売体制の確立

10周年を迎えた  
SATO事業

#### 目標



2025年までに  
1億人の人びとの衛生環境の改善を通じて  
生活の質の向上に貢献

#### 実績 (2023年3月期)

衛生環境が  
改善された人の数 約4,500万人

SATOブランド製品  
累計出荷台数

約750万台

SATOブランド製品  
年間出荷台数

4年連続 100万台

SATOブランド  
展開地域

45カ国以上



優先取り組み分野

水の保全と環境保護  
CO<sub>2</sub>ゼロと循環型の暮らしを



背景

2015年に採択されたパリ協定では、産業革命前からの世界の平均気温の上昇を2℃未満に抑え、1.5℃未満を目指すことが合意されています。その実現のためには、2050年までにCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出を実質ゼロにする必要があります。現状では、世界全体のエネルギーに関連するCO<sub>2</sub>排出量の約28%は建築物から発生しており、そのうちの17%を住宅部門が占めています。

また、人口の増加などともない、家庭における水の使用量は1960年の使用量と比べて6倍に増加している一方で、適切に管

理された飲料水にアクセスできない人の数は2022年時点で20億人に達しています。さらに、水資源の枯渇によって、2050年には世界人口の40%以上が必要な量の水を使えなくなると予測されています。

このままでは、世界の資源消費量は2050年までに現在の2倍以上となると言われています。そのため、資源を採掘して大量に生産し、大量に廃棄する一方通行の経済から、資源を効率的に利用する資源循環型の経済（サーキュラー・エコノミー）への移行が進んでいます。

建物による  
世界のエネルギー関連 CO<sub>2</sub> 排出量

約28%

そのうち、住宅部門

17%

必要な水を  
使えなくなる人

世界人口の40%以上

世界の資源消費量

世界人口の2倍以上

詳細については、下記 web サイトをご覧ください。 [https://www.lixil.com/jp/impact/environment/environment\\_detail.html](https://www.lixil.com/jp/impact/environment/environment_detail.html)

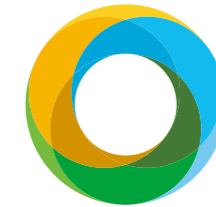
LIXILがもたらすインパクト

2020年3月期に策定した「LIXIL環境ビジョン2050」では、「Zero Carbon and Circular Living (CO<sub>2</sub>ゼロと循環型の暮らし)」を掲げ、重要課題のうち「気候変動対策を通じた緩和と適応」「水の持続可能性を追求」「資源の循環利用を促進」をビジョン実現に向けた重点領域に定めています。重点領域を推進するための共通の基盤として、製品ライフサイクルを通じた環境負荷の低減、および全社の環境マネジメント強化、各領域に深く関連する生物多様性の保全にも取り組んでいます。2050年までに環境分野でのリーディングカンパニーになることを目指して、事業プロセスと製品・サービスの両方を通じてCO<sub>2</sub>の排出量を実質ゼロにし、水の恩恵と限りある資源を次世代につなぎます。

この環境ビジョンの実現に向けて、LIXILでは事業活動や自社製品の使用にとまなう環境負荷を最小限にするだけでなく、あらゆるステークホルダーを巻き込みながら環境分野における新しい価値を創造し、地球環境や社会に対してより一層大きなインパクトを生み出すための取り組みを推進しています。

これらの取り組みをさらに加速させるため、2023年3月期に戦略を一部更新しました。企業責任を果たすことに加えて、新しい価値を創造し、インパクトを最大化するために、各重点領

域を「事業プロセス」「自社バリューチェーン」「インパクトの拡大」の3つのフェーズに分類し、これらに対する包括的な戦略アプローチや中期目標を定めました。それぞれのフェーズにおいて、インパクトを最大化するための取り組みを着実に進めていくことで、環境リスクを低減すると同時に、事業機会を捉え、持続可能な成長につなげていきます。



ZERO CARBON  
AND  
CIRCULAR  
LIVING

LIXIL 環境ビジョン2050  
Zero Carbon and Circular Living

中期目標



ZERO CARBON  
AND  
CIRCULAR  
LIVING

環境に配慮した持続可能な住まいは、豊かで快適な暮らしの実現でもあります。生活者と地球の未来を見据え、LIXILでは環境ビジョン2050「CO<sub>2</sub>ゼロと循環型の暮らし」を推進しています。3つの重点領域の主要項目について中期目標を設定し、環境ビジョン2050の達成に向けて取り組みを加速させていきます。

	事業プロセス	自社バリューチェーン	インパクトの拡大
気候変動対策を通じた緩和と適応	Scope 1+2 CO <sub>2</sub> 排出量 ↓ -50.4% <sup>*1</sup>	Scope 3 CO <sub>2</sub> 排出量 ↓ -30% <sup>*1</sup>	節水水栓・節水型トイレの販売構成比 100% <sup>*2</sup> (日本) 新築戸建て住宅向け高性能窓の販売構成比 100% <sup>*2</sup> (日本)
水の持続可能性を追求	水使用効率向上 +20% <sup>*1</sup> 水不足地点での水使用量削減	節水製品による水使用削減貢献量 年間 20億m <sup>3</sup> <sup>*3</sup>	安全性を高めたおいしい水の提供
資源の循環利用を促進	廃棄物などのリサイクル率 90% <sup>*2</sup>	リサイクル材/再生可能素材使用率の向上 100% <sup>*2</sup> 使い捨てプラスチックパッケージの削減 資源効率性の高い製品の拡充 再製品化への循環システムの構築	再資源化が困難な廃プラスチックの削減

\*1 2019年3月期比 \*2 2026年3月期まで \*3 2025年3月期まで その他、すべて2031年3月期を目標年度とする

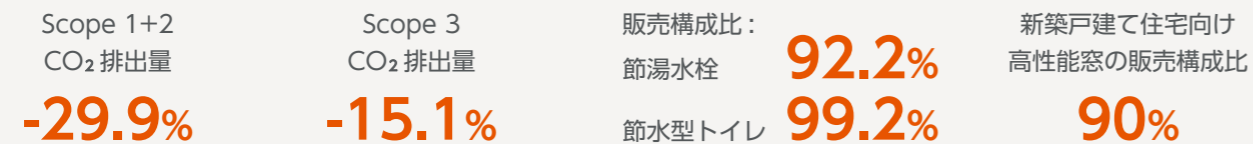
# 気候変動対策を通じた緩和と適応

## 事業プロセスと製品・サービスによる温室効果ガスの排出を実質ゼロにする

### 目標



### 実績 (2023年3月期)



### 事業プロセスにおける取り組み

LIXILは、2031年3月期までにScope1,2のCO<sub>2</sub>排出量を2019年3月期比で50.4%削減する目標を掲げています。事業活動における環境負荷の最小化に向けて、工場やオフィスでの徹底した省エネ活動や再生可能エネルギーの利用、CO<sub>2</sub>の排出量が少ない燃料や電気への転換（電化）などを実施することでCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

### 製造拠点での電化および燃料転換

LIXILの製造工程では多くの燃料を使用するため、燃料使用によるCO<sub>2</sub>排出量を削減する取り組みを進めています。低温域の製造工程では、燃料ではなく電気の使用に切り替え、さらにその際に使用する電力は再生可能エネルギー由来の電力に移行を進めています。また、有明工場では、これまで使用していた石油系燃料から天然ガスの使用に切り替えを開始しました。天然ガスは石油系燃料に比べて、燃焼時のCO<sub>2</sub>や大気汚染物質となる窒素酸化物（NO<sub>x</sub>）の排出量が少なく、硫酸酸化物（SO<sub>x</sub>）を排出しないエネルギーです。

高温域の製造工程では、燃料の切り替えや従来の製造方法の枠を超えた改革が必要です。そこでLIXILは、水素への燃料転換をはじめ、CO<sub>2</sub>を分離・回収して有効活用するCCUなどの新技術を取り入れたイノベーションや現在研究段階にある新技術の応用を視野に入れ、2030年以降の実用化を目指した検討を開始しました。2023年3月期には、前橋工場の生産設備において、水素への燃料転換に向けた実証実験に成功しました。



水素燃焼によるアルミ型材のエージング処理

### 再生可能エネルギーへの移行

日本国内では、生産工場14拠点、本社などの事業所6拠点、物流センター10拠点、営業所82拠点における使用電力に、再生可能エネルギー由来の電力を導入しています。生産工場では、再エネ電力証書の購入だけでなく、新たな再生可能エネルギー設備に対する投資を促す効果がある「追加性」を考慮し、PPAモデルと呼ばれる電力販売契約による太陽光発電設備を導入しています。国内では、大谷工場でもオンサイトPPAによる稼働を開始し、尾道工場でも2023年8月から稼働しています。その他、日本国内の8拠点でもこれまでに年間約34,000MWhを発電するメガソーラー発電施設を運営しています。

### 自社バリューチェーンにおける取り組み

LIXILは、2031年3月期までにScope3のCO<sub>2</sub>排出量を2019年3月期比で30%削減することを目指しています。Scope3のCO<sub>2</sub>排出量の多くは「製品使用」と「調達」が占めています。そのため、製品の省エネ化を進めるとともに、サプライヤーなどとの連携を強化して調達や物流におけるCO<sub>2</sub>排出量削減を推進しています。また、より低炭素な原材料・部材の使用、リサイクル材の活用、製品の省資源化、製品寿命の長期化や再利用に配慮した設計を進めることで、製品・サービスのライフサイクル全体でのCO<sub>2</sub>排出量削減にも取り組んでいます。

### 製品使用時のCO<sub>2</sub>排出量の削減

LIXILは、省エネ型のトイレ製品やキッチン関連製品の拡充を通じて製品使用時のCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。トイレ製品では、使わないときは自動で便座と温水の温度を下げる「スーパー節電」やスイッチ操作で一定時間ヒーターをオフにする「ワンタッチ節電」などの機能を開発し、サティスSタイプの製品では年間111キロのCO<sub>2</sub>排出量を削減しています。



省エネ型  
トイレ製品のイメージ

### インパクトの拡大に向けた取り組み

LIXILは、日本国内の新築戸建て住宅向け高性能窓の販売構成比率を2026年3月期までに100%とする目標と、節湯水栓や節水型トイレの販売構成比率を2031年3月期までに100%とする目標を掲げています。日本の一般的な住宅では、消費エネルギー

の約60%を暖冷房と給湯が占めていることから、LIXILでは、開口部の断熱性を高める窓や玄関ドアなどの製品、壁や天井、床など住宅全体の高断熱化を実現する高性能住宅工法、節湯・節水に貢献する水まわり製品、創エネ機能を有する製品・サービス、IoT技術を活用した宅配ボックス製品などを提供することで、気候変動の緩和へのインパクトを拡大しています。また、台風や豪雨といった自然災害や猛暑による熱中症に備えるソリューションを通じて、気候変動への適応にも貢献しています。

### トリプルガラスの高性能ハイブリッド窓「TW」(TOSTEMブランド)

屋外側に強度・耐久性に優れたアルミ、室内側に断熱性が高く結露を軽減する樹脂を採用したハイブリッド構造の窓。高性能ガス入りの中空層を2重に有し、ダブルLow-Eによる先進のトリプルガラス仕様で、圧倒的な断熱性能を実現しています。単板ガラス窓と比較して約8割の熱流出を抑えることができ、新築住宅におけるCO<sub>2</sub>排出量削減効果は37%です。



トリプルガラスの高性能ハイブリッド窓「TW」

### ナビッシュハンズフリー（エコセンサー付き）(INAXブランド)

浄水器ビルトイン型のキッチン用タッチレス水栓。自動センサーによって吐水・止水を行うタッチレス機能と、湯水を使い分けるエコセンサー機能で、省エネ・節水を実現しています。従来品と比較して約37%の省エネ、約30%の節水が期待できます。



「ナビッシュハンズフリー」

# 水の持続可能性を追求

節水や水の循環利用、浄水技術などを通じて、水の環境価値を創造する

## 目標



## 実績(2023年3月期)



## 事業プロセスにおける取り組み

LIXILは、事業プロセスにおいて責任ある水の利用をグローバルで推進し、2031年3月期までに事業所における水の使用効率を2019年3月期比で20%向上させる目標を掲げています。製造工程で水を使用する拠点では、地域ごとの水関連事業リスクを把握するとともに、特に水不足が懸念される拠点を中心としたリサイクル水の循環利用、排水管理などの適切な施策を通じて水の使用効率を向上させ、水使用量の削減に取り組んでいます。

## 水使用効率の向上

LIXILでは、水資源を有効に活用するためにリサイクル水の活用を推進し、2023年3月期は約66万m<sup>3</sup>のリサイクル水を使用しました。特に水不足が深刻なアジアや北米地域の工場において、積極的な取り組みを行うことで、さらなるリサイクル水の利用拡大と、水使用量の削減を進めています。



水循環システムの導入

## 自社バリューチェーンにおける取り組み

LIXILは、節湯水栓や節水型トイレなどの節水性能の高い製品・サービスを通じて、2025年3月期までに年間20億m<sup>3</sup>の水使用量の削減を目指します。節湯水栓や節水型トイレなどの節水性能の高い製品・サービスのほか、スマートコントローラーなどIoTによる漏水防止対策に対応するソリューションを通じて、エンドユーザーの水使用量の削減に貢献しています。

## SATIS (INAXブランド)

高い洗浄性能を持ちながら、超節水を実現しています。従来品(大洗浄1回あたり8L)と比べ最大49%の節水が可能です。また、「アクアセラミック」の搭載により、水を流すたびに汚物を浮かせて流すので、日常的な簡単な掃除で新品の輝きが100年続きます。



「SATIS」施工イメージ

アクアセラミック

## Everstream (GROHEブランド)

水をリサイクルして使うことを可能にしたシャワーシステム。水の使用量を最大75%削減、水をお湯に変える際のエネルギー消費量を最大66%削減、CO<sub>2</sub>排出量も最大70%削減することが可能です。GROHEブランドでは、2030年までにすべてのコンシールド・シャワーをリサイクル対応にするという意欲的な目標を掲げています。本製品はその第一弾として2023年3月期に発表され、2024年春の発売を予定しています。



「Everstream」

## インパクトの拡大に向けた取り組み

LIXILは、衛生的な水を提供する製品・サービスを通じて、地下水汚染のリスクを低減し、適正に管理された衛生設備とより安全な水へのアクセスを向上する取り組みを推進しています。水道水にアクセスができる地域では、浄水栓・浄水カートリッジを提供し、安全性を高めたよりおいしい水を届けることで、水の持続性を追求しています。

## LIXIL Public Partners (LPP) による水と衛生の分野に関する取り組み

水と衛生の分野における官民連携強化のために設立されたLIXIL Public Partners (LPP) では、公共下水道が整備されていない米国の農村地域に、排水処理設備や節水型製品などを導入することで、農村地域での地下水汚染のリスクを低減し、よ

り安全な水へのアクセスを向上するための実証実験を行っています。この実証実験を通じ、今後は官民連携モデルの展開をグローバルで加速していきます。



アラバマでのプロジェクトの様子

## Saybrook Filtered Kitchen Faucet (American Standardブランド)

LIXILは、水栓と浄水に関する独自技術を有する世界有数の企業として、一体型浄水栓用のコンパクトな高性能フィルターをはじめとする高性能製品を開発し、市場における競争優位性を確立してきました。海外拠点においても、各市場に適した技術開発を通じて浄水技術のさらなる進化を図っています。

Saybrook Filtered Kitchen Faucetでは、高いろ過技術を使って、水道水に含まれる鉛や塩素、微粒子などの不純物を取り除き、安全でおいしい飲み水を提供しています。小型で画期的なデザインの付属フィルターは、手の届きやすい調理台の上や邪魔にならない調理台下の内壁など、ユーザーの好みに合わせて設置することができます。家庭で手軽にきれいな飲用水にアクセスができることで、ペットボトル飲料水の購入や水の宅配利用が減り、環境負荷の低減にもつながります。



「Saybrook Filtered Kitchen Faucet」

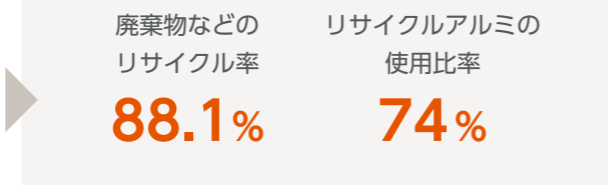
# 資源の循環利用を促進

循環型社会への変革に貢献し、  
限りある資源を未来につなぐ

## 目標



## 実績 (2023年3月期)



## 事業プロセスにおける取り組み

LIXILは、生産工程における廃棄物を減らし、リサイクル率を向上させることで、資源を有効に活用することを目指しています。2026年3月期までに、事業所から排出される廃棄物のリサイクル率をグローバル全体で90%にする目標を掲げています。

### 生産拠点での廃棄物削減

名張工場ではバイオマス事業者認定を取得するとともに、木材サプライヤーに森林認証団体への加盟を働きかけた結果、これまで廃棄物として処理していた木屑をバイオマス燃料として売却することができ、2020年4月に木屑廃棄物排出ゼロを実現しました。

高温域の製造工程では、燃料の切り替えや従来の製造方法の枠を超えた改革が必要です。そこでLIXILは、水素への燃料転換をはじめ、CO<sub>2</sub>を分離・回収して有効活用するCCUなどの新技術を取り入れたイノベーションや現在研究段階にある新技術の応用



木屑イメージ

を視野に入れ、2030年以降の実用化を目指した検討を開始しました。2023年3月期には、前橋工場の生産設備において、水素への燃料転換に向けた実証実験に成功しました。

## 自社バリューチェーンにおける取り組み

LIXILは、新規に投入する資源を最小化することを目指して、アルミや再生樹脂、再生木材などのリサイクル材・再生可能素材の使用比率を向上する取り組みを推進しています。2031年3月期までに、ハウジング事業で使用されるアルミ型材におけるリサイクルアルミの使用比率を100%にする目標を掲げています。また、使い捨てプラスチックパッケージの削減や製品寿命の長期化、再利用に配慮した設計などを通じて、資源効率性の高い製品の拡充、製品から製品への循環システムの構築にも取り組んでいます。

### 低炭素型アルミ型材「PremiAL」シリーズ

LIXILでは長年にわたるアルミ資材のリサイクル技術の開発に取り組み、業界トップクラスのリサイクル率を実現しています。2023年10月1日より、国内初\*となるリサイクルアルミ使用比率100%の低炭素型アルミ型材「PremiAL R100」の物件対応を開始します。「PremiAL R100」は新しい地金を使った製品に比べて約75%のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献し、第三者認証「エコリーフ環境ラベル」を取得しています。\*2023年4月時点、自社調べ



「PremiAL R100」

### 使い捨てプラスチックパッケージの削減

エンドユーザーが廃棄するプラスチックパッケージについて、LIXILでは環境配慮型資材への代替や梱包材の削減などに取り組んでいます。GROHEブランドのイニシアティブ「Less Plastic Initiative」では、2018年から製品のパッケージ資材を持続可能な代替素材に切り替えを進め、2023年3月期には梱包材からプラスチックを完全に排除しました。また、日本国内のエンドユーザーに届くキッチンと浴室の取扱説明書のパッケージは、海洋生分解性を有するバイオプラスチックに切り替えました。

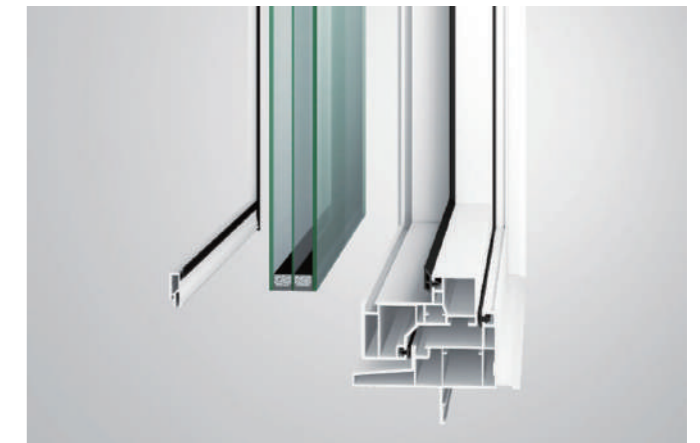


INAX「Aqua Power Showerhead」の紙パッケージ

### 樹脂窓「EW」(TOSTEMブランド)

熱伝導率が低い樹脂を素材に採用し、さらに樹脂フレームの空間を分けることで熱が伝わるのを抑制する多層ホロー構造や、ト

リプルガラスなどの高性能ガラスによって、世界トップクラスの断熱性能を実現した樹脂窓。接着剤を使用しないことから樹脂フレームとガラスの分離回収を容易にする押縁仕様を採用しているほか、フレームと合わせて材料の再生利用が可能な樹脂ラッピング材を使用しています。



樹脂窓「EW」

## インパクトの拡大に向けた取り組み

LIXILは、再資源化が困難な廃プラスチックの削減に向け、廃プラスチックを有効活用した循環型素材の開発に取り組んでいます。

### 循環型素材「レビア」

従来は再資源化が困難とされ、焼却や埋め立てによって処理されている複合プラスチックをはじめ、ほぼすべての種類の廃プラスチックと、建築物の解体や補修などから生じる廃木材を融合した循環型素材。焼却されていた廃プラスチックを再資源化することで、CO<sub>2</sub>排出量の削減にも貢献します。2023年3月期には、第一弾として舗装材「レビアペイブ」を発売しました。



循環型素材「レビア」



優先取り組み分野

## 多様性の尊重

すべての人にインクルージョンを



### 背景

2022年時点での世界人口に占める65歳以上の割合は10%です。そして、この割合は2050年には16%にまで上昇すると予測されています。

また、近年女性の社会進出は進んでいますが、世界の女性の労働参加率は男性の72%に比べて47%弱と低く、そのうち半数以上の国では非正規雇用で働く女性の割合が男性よりも高いと言われています。非正規雇用の従業員は正規雇用に対して昇進・昇給の機会が少なく、このことが管理職における女性比率の低さや男女間賃金格差の要因となっています。国際労働機関（ILO）が2022年に発表した報告書では、世界の女性の賃金は男性と比べて平均で20%も低いとされています。

さらに、何らかの障がいがある人の数は世界人口の約15%にあたる約10億人とされており、その割合は年々増加しています。日本の障がい者数は964万人ですが、「障害者雇用率制度」

の普及によってその雇用は2021年に59万7,786人（対前年比3.4%増）と過去最高となりました。しかし、いまだに障がいがある人たちの働く場所は限られているのが実情です。

### LIXILがもたらすインパクト

LIXILは顧客志向を徹底するとともに、さまざまなニーズに対応したイノベーションや持続可能な成長を実現する上で、多様な従業員の潜在能力を引き出すことが重要であると考えています。そのため、「ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）」を積極的に推進し、公平でインクルーシブな環境の構築に注力しています。

LIXILのD&I戦略では、2030年3月期までにLIXIL全体にインクルージョンの文化を定着させ、ジェンダー不均衡を是正すること

#### 世界人口に占める 65 歳以上の割合



#### 世界労働参加率



詳細については、下記 web サイトをご覧ください。 [https://www.lixil.com/jp/impact/inclusion/inclusion\\_detail.html](https://www.lixil.com/jp/impact/inclusion/inclusion_detail.html)

を目標に掲げています。男女間賃金格差や女性管理職比率の低さなど、当社が抱える課題を認識した上で、目標達成に向けたアクションプランを策定し、人事制度や人材育成、職場環境づくりにおいてD&Iの観点を組み込んだ施策を段階的に進めています。

LIXILは多様な従業員の知見や観点を活かしたイノベーションと社内外でのさまざまなコラボレーションを通じて、多様化する顧客ニーズに応え、年齢や性別、障がいの有無を問わず、すべての人びとの健康で快適な暮らしを支えることを目指しています。

そのために、多様な人びとがお互いを尊重しながら生き生きと暮らすことができる「ユニバーサル社会」の実現に向けて、誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン（UD）を推進しています。

LIXILのUDコンセプトは「ひとりにはいい、みんなにはいい、ずっといい。」です。多様なライフスタイルに寄り添った水まわり製品や住宅建材を提供するとともに、誰もが安心して快適に利用できるパブリックトイレの実現に向けた研究・提案なども行っています。

LIXILはこのように、UDを通して多様性への理解を促進するための情報発信や啓発活動をはじめ、大学との共同研究などに取り組むことで、社会により良い変化をもたらしています。



ジェンダー平等、多文化、障がい、働く親や介護者、LGBTQ+にフォーカスしたグローバル規模の従業員グループ「ERGs」のロゴ



知的障害※のあるアーティストの作品を採用した内装機能タイル「エコカラット」

※本製品においては、社会側に障壁があるというヘラルポニーの考え方に基づき「障害」という表記で統一しています。



世界で初めて玄関ドアのハンズフリー操作を実現した玄関ドア用電動オープナーシステム「DOAC」

#### 目標

2030年3月期までに



女性取締役・執行役比率

50%



全世界の女性管理職比率

30%



日本の新卒採用の男女比率

50:50

#### 実績 (2023年3月期)

女性取締役・執行役比率

31.3%

全世界の女性管理職比率

17.5%

日本の新卒採用の男女比率

34.1%



## 国内におけるコミュニティ活動事例

LIXILでは、社会に貢献するさまざまな活動を展開しています。

### LIXILコミュニティデー

従業員が、勤務時間内に3つの優先取り組み分野に関する社会貢献活動を行う取り組みです。

コミュニティデー参加人数

2023年3月期 **9,500人以上**



### オリジナル出前授業

未来を担う子どもたちとともに、社会課題の解決に貢献することを目指し、オリジナル教材を用いた出前授業を行っています。

出前授業実施回数

累計 **1,532回**

出前授業参加人数

累計 **50,000人以上**



### LIXIL × SDGs NEXT STAGE

2030年のSDGs達成に向けて貢献を加速させるため、日本国内のお客さま、ビジネスパートナー、そして次世代を担う子どもたちとともに、SDGsへの理解や関心、行動を広める活動です。

**LIXIL × SDGs**  
NEXT STAGE



株式会社 LIXIL

〒141-0033  
東京都品川区西品川一丁目1番1号  
大崎ガーデンタワー  
www.lixil.com/jp